

樽井 千香子<sup>1</sup>, 辻 勲<sup>1</sup>, 井谷 裕紀<sup>1</sup>, 水野 里志<sup>1</sup>, 重田 護<sup>1</sup>, 福田 愛作<sup>1</sup>, 森本 義晴<sup>2</sup>

1. IVF 大阪クリニック

2. HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

チョコレート嚢胞の存在がART臨床成績に与える影響として、採卵数は低下するが、妊娠率に影響を及ぼさないと言われている。しかし、これらの影響はチョコレート嚢胞が両側か片側か、またその大きさによって異なる可能性がある。そこで、本検討ではチョコレート嚢胞の存在がART臨床成績に及ぼす影響を検討するため後方視的検討を行った。

### 【方法】

2016年1月から12月の間に当院で初回の採卵を実施した569例(チョコレート嚢胞合併患者は81例、非合併患者は488例)を対象とした。ART臨床成績について、①チョコレート嚢胞の有無、②チョコレート嚢胞が両側か片側か、③採卵時のチョコレート嚢胞の大きさに分類し比較検討した。

### 【結果】

チョコレート嚢胞径の平均は $23.3 \pm 9.68\text{mm}$ ( $9.0\text{-}60.0\text{mm}$ )であった。①チョコレート嚢胞の有無で比較した検討では、チョコレート嚢胞合併患者群と非合併患者群の比較では、採卵数( $10.0 \pm 6.97$  vs  $10.1 \pm 7.22$ )、卵成熟率(85.1% vs 81.9%)、受精率(83.5% vs 81.5%)、胚盤胞到達率(61.4% vs 66.7%)、臨床的妊娠率(58.9% vs 56.0%)、生児獲得率(52.1% vs 47.9%)であり、両者に有意な差は認められなかった。②チョコレート嚢胞の側性別での比較では、片側群(73例)、両側群(8例)、非合併患者群の結果は、採卵数( $9.8 \pm 7.00$  vs  $11.3 \pm 6.62$  vs  $10.0 \pm 6.97$ )、卵成熟率(84.6% vs 88.9% vs 81.9%)、受精率(84.0% vs 80.0% vs 81.5%)、臨床的妊娠率(58.5% vs 62.5% vs 56.0%)、生児獲得率(50.8% vs 62.5% vs 47.9%)であり、3者の間に有意な差は認められなかった。③採卵時のチョコレート嚢胞の大きさ別での検討では、40mm未満群(74例)と40mm以上群(7例)の結果は、採卵数( $10.1 \pm 7.06$  vs  $9.0 \pm 6.90$ )、卵成熟率(85.1% vs 85.2%)、受精率(83.1% vs 89.1%)、胚盤胞到達率(60.3% vs 71.4%)、臨床的妊娠率(59.7% vs 50.0%)、生児獲得率(52.2% vs 50.0%)であり、両者に有意な差は認められなかった。

### 【考察】

今回の検討では、チョコレート嚢胞の存在は ART の臨床成績に影響しないと考えられた。ただし、本検討のチョコレート嚢胞のサイズの設定が限定的であるため、チョコレート嚢胞の側性や大きさ、のみならず数や治療歴も加え、その影響についてさらなる検討が必要である。